

九幡を歩いてふるさとの文化遺産を知ろう!

○**三ツ角灯籠** 沖新田に8基あるうちで一番姿の良いのがこの灯籠といわれ、天保12年(1841年)11月建立され、灯籠の中央、手洗い鉢に刻まれている獅子は香川県屋島の獅子萬と呼ばれる名工の作といわれている。

○**開墾大宮人の碑** これはお墓ではなく沖新田開墾の総奉行津田永忠をまつる記念碑である。言い伝えによれば、この碑の下に開墾当時の貴重な資料が埋められているといわれるが掘り出した人もなく、今なお謎とされている。

○**JA岡山 九幡支所** 明治43年2月購販組合として発足し、その後何度か各地区農協と合併を重ね現在に至る。

○**津田永忠記念碑(左源太塚)** 豊田戎町堤防脇にある記念碑は岡山藩主3代目池田光政。4代目綱政の2代にわたって新田開発が盛んに行われ、沖新田工事の総奉行を勤めた津田永忠の本名津田重二郎左源太からとって一般に「左源太塚」と呼ばれている。

○**忠魂碑** 豊田戎町の津田翁記念碑と対して、九幡村出身の殉国の英霊を祭る忠魂碑が建つ。

○**九幡漁業協同組合** 明治36年2月九幡村漁業組合として発足し、その後時代の変遷を経たのち、昭和24年8月現在の組合を設立し、養殖や栽培漁業など近隣に類を見ない程の活発な事業活動を展開している。

○**九幡工業団地** 昭和49年10月に団地造成が始まり県側の斡旋により大企業が次々進出して操業し一大工業団地を成す。

○**四ツ手網** 昭和30年頃までは内川の樋門付近に設置されて、エビ、ボラ、ウナギ、セイ等が獲れていたが漁獲は減り昭和30年頃からは外海へ移転し、次第に増設されて児島湾の観光名物となる。

○**鳩島** 左源田塚の向かい四ツ手網の並んでいるすぐ目の前に見えるのが鳩島です。ここからの眺めは絶景で鳩島の後方には対岸の小串や児島湾大橋を望む。

鯨のお話

昭和29年1月6日の朝、突如として児島湾に長さ7m~8mくらいのマッコウ鯨の子が迷い込み鳩島付近を潮吹き上げ悠々と泳いでいた。九幡の漁師達をはじめニュースを聞いた新聞社や放送局の報道班が生け捕りしようと挑んでみたものの鯨は神出鬼没、翻弄されるばかりで逃げられる。その後鯨は針路を南に豊後水道を通り洋上の波間に消え去ったとの事。



開墾大宮人之碑



三ツ角灯籠



十番灯籠



●開成コミュニティハウス ●苺ハウス

●JA岡山九幡支所



●西大寺九幡郵便局



●左源太塚



四ツ手網



九幡工業団地



最上稲荷神社
港町 九幡港の灯籠

●九幡港

●赤灯台



○**十番灯籠** 寛政6年(1794年)10月に建立され、対岸にある乙子の灯籠と対してあり、吉井川の航行の安全のためと牛窓街道南回りの乙子渡しの目印とされ、又、沖新田の外部堤防の江崎にある一番灯籠とこの十番灯籠が一对で堤防工事の起点と終点を示している。

灯籠の笠の一部が壊れているのは、大正14年の丹波地震で落ちて破損したと伝えられている。

○**開成コミュニティハウス** 平成2年4月公民館九幡分館跡地に地区住民のふれあいの場として建設される。

○**苺ハウス** 昭和20年頃金田地区で露地栽培されていたのが昭和30年頃から九幡でも栽培される。日暮れになるとあちこちに点在する苺ハウスに明かりがとまり、それは見事な光景である。

○**西大寺九幡郵便局** 明治35年11月九幡稲荷神社近くに、九幡郵便受取所として開設される。昭和61年6月現在地に新築移転し、局名も西大寺九幡郵便局と改称される。

○**最上稲荷神社** 寛政8年(1796年)6月沖新田九幡守護神として創建された。拝殿は老朽化したので昭和53年に改築される。最近の秋祭りには境内に舞台を設けてカラオケ大会や時には備中神楽などの奉納もある。

○**九幡港の灯籠(常夜灯)** 九幡に現存する4つの灯籠の一つでこのような優雅な灯籠は岡山県にも3基しかないといわれるもので貴重な遺産である。その昔、この灯籠と幸島外波の灯籠と小串の灯籠の三つが対して、瀬戸内海から児島湾・吉井川への航路を示し航行の安全を守り続けた灯籠である。長い年月の間に台風や地盤沈下などで灯籠の下部が破損して崩壊寸前になり平成2年(1990年)3月修理復元される。

○**赤灯台** 児島湾の安全を守るため、九幡港防波堤の突堤に設けられており航行する船の安全を守っている。



小豆島行きフェリー

鳩島